

横浜女子短期大学図書館 自己点検・評価報告書

2015 年度版

目次

序	1
第1部 図書館自己点検・評価の概要	2
1 「短期大学評価基準」に基づく自己点検・評価	2
2 総合的な自己評価	9
第2部 資料編	15
I 図書館業務報告	15
II 図書館利用者満足度調査分析	26

横浜女子短期大学図書館

序

本報告書は、「短期大学評価基準」（2004年10月制定、2008年5月改訂 短期大学基準協会）に沿った評価を「1 図書館自己点検・評価の概要」に位置づけ、「2 資料編」と併せ2部構成とした。

第1部 図書館自己点検・評価の概要

- 1 「短期大学評価基準」に基づく自己点検・評価
- 2 総合的な自己評価

第2部 資料編

- I 図書館業務報告
- II 図書館利用者満足度調査分析

自己点検・評価は、一般的にその年度ごとの事業計画および報告についての分析をもとに実施される。当館において、事業計画は、図書館委員会において作成され、その事業計画にもとづいて業務が遂行される。そしてその結果が年度ごとに報告される。このため「2 資料編」は、自己点検・評価を実施する際の基本データとなる。

「第2部 資料編」の「I 図書館業務報告」は、各年度の業務内容、利用実績、図書館利用の資料統計などをまとめたものである。「II 図書館利用者満足度調査分析」は、毎年「図書館利用についてのアンケート」として実施されるアンケートを集計し、分析結果を付記したものである。図書館サービスが利用者にとどのように受け取られているかを、満足度によって知ることができる。

第1部 図書館自己点検・評価の概要

1 「短期大学評価基準」に基づく自己点検・評価

(1) 利用者数および開館日数

学生数は、395名（1学年207名、2学年188名）

教職員数は、67名、合計 462（2016年5月1日現在）

2015年度の開館日数 247日

(2) 施設・設備

本館の施設・設備に関しては、次のとおりである。

鉄筋コンクリート造 3F建（1987年10月竣工）

床面積 2F 635㎡、3F 635㎡ 1F書庫 200㎡ 合計1,470㎡

図書収容能力 122,000冊

1F 書庫

2F カウンター、AV室（DVD・VTRプレイヤー3台、CDプレイヤー2台）、教員室（現在は教員の個人研究室として管理外）、館長室、事務室、ブラウジング・コーナー、絵本コーナー、OPAC・コーナー（館内用1台、インターネット経由4台）

3F 閲覧室、一般書架、ブラウジング・コーナー、OPAC・コーナー（館内用1台、インターネット経由2台）、紙芝居・大型本書架

閲覧席数 108席

2F 閲覧室（12席）、AV室（共同閲覧可）（8席）

3F 閲覧室（84席）、キャレル（4席）

その他の座席 24席

2F ブラウジング・コーナー（6席）、スツール（9席）

3F 読書席・コーナー（8席）、スツール（5席）

入口にはBDS（Book Detection System）を設置し、図書の無断持ち出しを防止している。
2006年7月から計数機によって入館者数をカウントしている。

また、教員閲覧室は「教員室」に変更されて以降、図書館内に個人研究室が置かれている。

(3) 資料

2016年3月現在、蔵書数は124,100冊、現行受入雑誌は119タイトル（うち購入109タイトル、学術雑誌は88タイトル）、現行受入研究紀要126タイトルであり、保存雑誌249タイトル、保存研究紀要313タイトルである。

受入図書の変遷、AV資料数の内訳は下記および図1のとおりである。

図書、雑誌（2015年度）

図 書			雑誌・新聞		
和書	洋書	合計	和	洋	合計
121,813	2,287	124,100	119	0	119

図書は冊数、新聞は、年間受入雑誌のタイトル数

受入冊数の変遷

年度	和書		洋書		合計	蔵書数	
	総数	寄贈	総数	寄贈			
2011	23	2,409	506	3	0	2,412	116,098
2012	24	2,356	521	0	0	2,356	117,928
2013	25	2,400	615	0	0	2,400	119,978
2014	26	2,519	436	28	28	2,519	122,041
2015	27	2,551	510	1	0	2,552	124,100

寄贈図書は、主に本学協力会から、冊数は内数

（単位：冊）

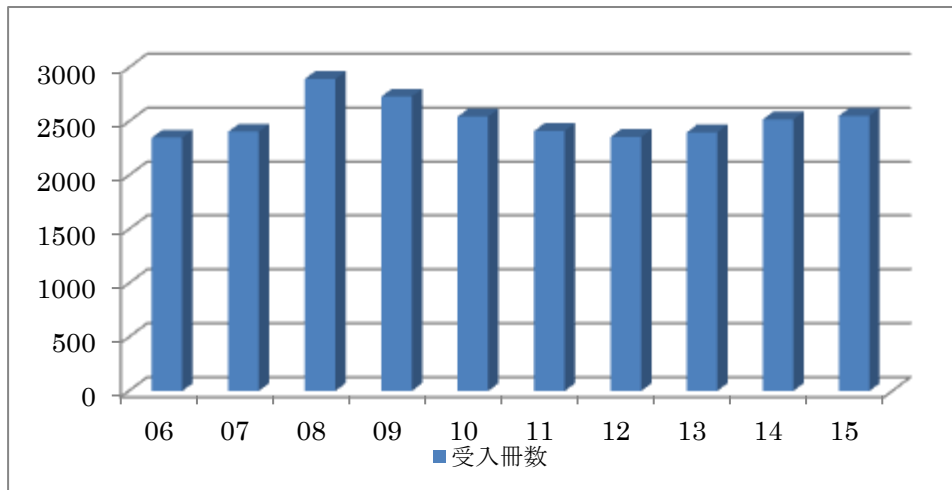


図1 受入冊数の推移

視聴覚資料一覧

ビデオテープ：593巻	／	DVD：552枚	／	カセットテープ：222巻
CD：1,442枚	／	CD-ROM：11枚	／	紙芝居：2,518点
ピアノピース：492点	／	スライド：18点		

資料保管のための見通し

2012年度、3階閲覧室の壁面に書架を増設し保管スペースを確保したため、図書収容能力が以前の11.5万冊から12.2万冊程度に増加した。2015年度末、蔵書数は124,100冊となり100%の状態となった。ただし本館の場合、絵本、ソフトカバーの軽読書用の図書が多数あるため、計算上よりも若干余裕が見込まれる。当面は、不用図書が多数あるため、除籍によってスペースを確保している。

(4) 年間予算

2015年度の決算額は、図書費 360 万円（AV 資料、データベース、製本費を含む）、雑誌・新聞 100 万円、合計 460 万円であった。2010 年度に予算が減額されて以来、資料の受入数は減少している（図 2）。このほかに、例年どおり本学協会から年間 60 万円の補助を受けた。

資料費の変遷 (単位：千円)

年度		図書	図書以外	合計
2011	23	3,084	1,516	4,600
2012	24	3,099	1,423	4,522
2013	25	2,949	1,651	4,600
2014	26	3,288	1,312	4,600
2015	27	3,209	1,391	4,600

図書以外：新聞・雑誌のほか AV 資料、データベースなどが含まれる

(単位：千円)

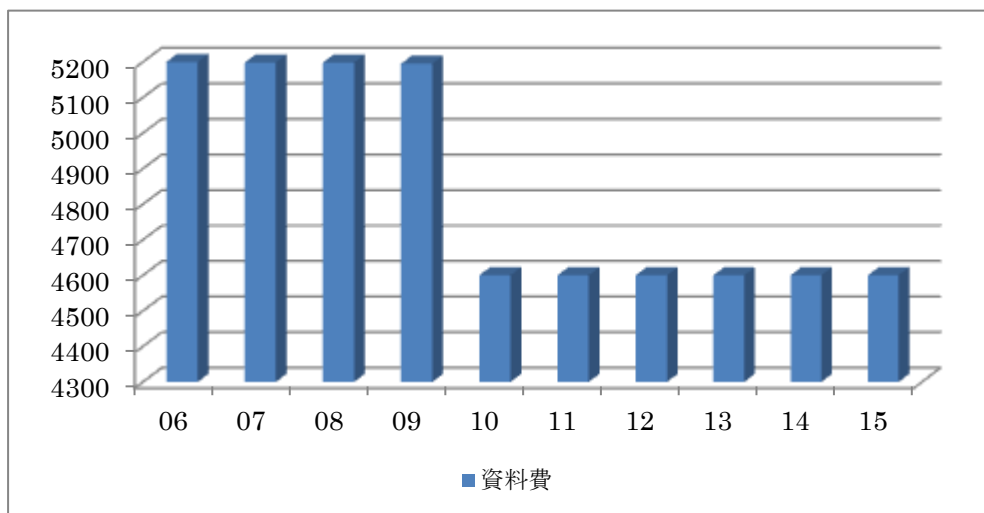


図 2 資料費の推移

(5) 購入図書の選書システムと廃棄について

図書の選書システムは、1997 年度に選書ワーキンググループ（以下、選書WG）による教員と図書館員による組織がつけられた（1998 年度以降中断、2005 年度再発足）。2007 年度以降、組織的に運営するため、選書WGのメンバーを固定化し（教員 4 名に館長、図書館員 1 名）、定期的に会議を開催していたが、2010 年度以降は選書のための資料を回覧するにとどまっている。

選書について

毎年、非常勤講師を含む全教員に対して 4 月と 10 月の学期のはじめに、授業などのために必要な購入希望図書の依頼をしている。希望が出されたものについては最優先して購入し、また「シラバス」に掲載された教科書、参考書類はもれなく揃えるようにしている。

なお、学生の要望を反映させるためにリクエスト制度と、「選書ツアー」を実施している。2015年度は3回、延べ20名と多くの学生が参加した。ツアーの際の図書の購入には、協力会からの補助60万円を充当し、2015年度は図書458冊を購入した。

除籍について

2015年度は493冊の除籍を行った。いずれも、内容が古いために利用価値を著しく喪失した資料である。これらは「資料収集・管理規程」第14条に則って、図書館が該当する資料リストを作成し図書館委員会に諮る。承認を得た上で、さらに全教員に周知し、資料に関し意見を求め、1週間の閲覧期間を設けた後、事務的な処理が行われる。

参考図書、教科関連の図書などの収集に関して

2013年度から2015年度まで過去3年の平均受入冊数は2,490冊である。本学学生の利用は、その多くが教科の学習を目的としているため、学習・教材的な資料を多く購入している。貸出される図書の多くは、主にレポートの出される教科や実習のための利用であり、購入と利用のバランスはとれていると考えられる。かつては、参考図書（レファレンス・ブック）は、学生の利用を予測して、広範な分野に渡って購入し、利用の便をはかってきたが、近年は、過去3年間平均で44冊、受入冊数の1.8%程度である。基本資料が打ち切られたままになり、更新されていない資料が少なくない。

図書・レファレンスブック（参考図書）の受入状況 (単位：冊数)

年度		一般図書	参考図書	合計
2011	23	2,360	52 (2.2)	2,412
2012	24	2,299	57 (2.4)	2,356
2013	25	2,350	50 (2.2)	2,400
2014	26	2,478	41 (1.7)	2,519
2015	27	2,512	40 (1.6)	2,552

かっこ内の数字は、受入冊数に占める割合

(6) 職員態勢

2015年度も専任職員3名（全員が司書有資格者）であり、短大図書館の職員数の平均を上回っている。だが、他館が業務量に応じて非正規職員を確保して運営されているのに対し、他館に比べ貸出などの作業量が多くありながら、開館時間の延長などの業務に対する補助要員は考慮されていない。

研修・研究については、館員に適切な機会が与えられ、本館加盟の研修など必要に応じて参加するよう配慮がなされている。

(7) 急速な情報化へのシステム対応

図書館情報システムは、ブレインテック「情報館」を使用している。数年おきに最新のシステムに更新され、図書館業務化は円滑に機能している。情報検索システムについても何ら問題は生じていない。

(8) 利用サービスの促進

1990年代に入り本館の学生の図書館利用が大幅に増加し、学生1人当たりの貸出冊数は2007年度までは平均30冊以上を記録していた。2008年度以降は毎年減少したが、2015年度の学生1人当たりの冊数は17.8冊と昨年度より1.3冊増加した(図3)。利用者の要望を選書に反映させるため、従来からリクエストの制度が設けられている。

貸出冊数の推移(学生・卒業生)

年度		学生数	貸出冊数	1人当たり	卒業生
2011	23	350	7,558	21.6	1,141
2012	24	374	7,917	21.2	963
2013	25	380	6,950	18.3	1,052
2014	26	364	6,010	16.5	1,148
2015	27	365	6,507	17.8	993

学生数以外の単位は冊数

(単位:冊)

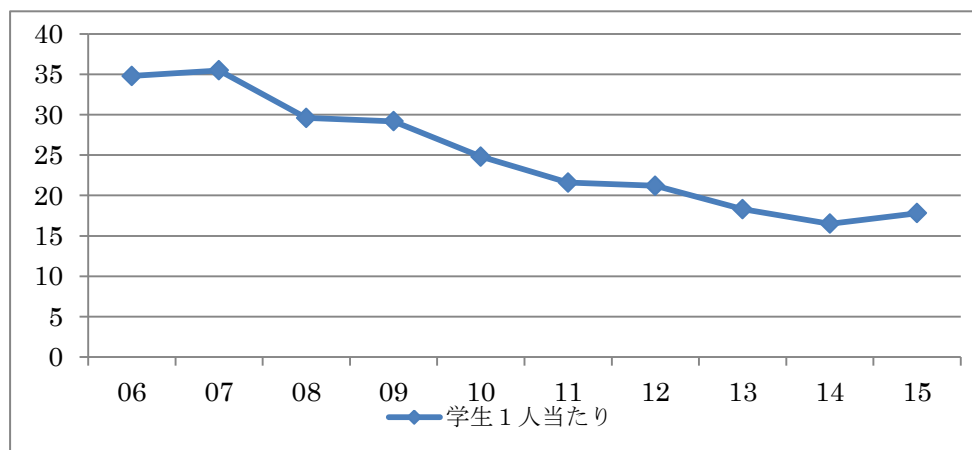


図3 学生1人当たり貸出冊数の推移

学生に対しては、新学期(4月)に学年全体のオリエンテーションを実施している(全体で1学年30分、2学年10分程度)。これとは別に1年生には、グループ別に館内オリエンテーションを実施し、詳しい利用方法を説明する機会を設けている。その際、案内は毎年2年生にお願いしている。同時期にコンピュータ検索(OPAC)のガイダンスも開いているが、参加者はいない。日常的にカウンターで利用の案内をしている。

学生の利用に最も強い影響力をもっているのは、教員からの働きかけである。なかでも授業と図書館との連携こそが最善の利用教育であろう。毎年4月と10月に「授業内図書館ガイダンス申込書」を全教員に配布し、協力を求めている。

教科に必要な資料について、2015年度もこれまで同様、年2回、全教員にあて「学生に対する図書などのお願い」を配布して協力を呼びかけた。繰り返し協力を要請していることもあって、事前にレポートのテーマを図書館に知らせてくれる教員も現れるようになった。学生の図書館利用の促進のために、引きつづき教員との連携を模索する必要がある。

開館時間は平日 9:00～18:20、また、カリキュラムの関係で授業が行われる土曜は開館（10:00～15:00）を実施している。そのため保育現場に勤務する卒業生の利用は次の表のとおり増加傾向にある。

利用の満足度について、2015 年度も 12 月と 2 月（2016 年）に全学生を対象に「図書館利用に関するアンケート」を実施し、学生の意見を図書館運営に反映させている。また新入生に対して 2013 年度より「読書アンケート」（4 月実施）を毎年行っている。

（9）学内外への情報発信、相互利用など

「図書館報」は年 10 回、定期発行することになっているが、2015 年度は 6 号であった。このほかに各種図書館利用のための案内などを発行している。

2014 年 4 月、ホームページのデザイン、機能をリニューアルした（2006 年度開設、本格実施 2008 年度）。近年利用が増えている学生以外の利用者に向けて、利用案内をわかりやすくし、学習・研究のためのリンク集などを設けた。発行物もすべて閲覧できる。今後は HP 上から予約や延長の手続き、貸出状況の確認等など機能を充実させていきたい。

卒業生の利用

卒業生に対する利用は、これまでと同様に実施されている。平日の閉館時間を 18:20 までとし、前期は授業のある土曜も開館（10:00～15:00）していることもあり、利用しやすくなっている（図 4）。現場に出て資料の必要性を感じ、公共図書館には保育の資料はほとんどないことを実感するようだ。

卒業生貸出冊数・人

	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15
冊数	786	596	649	695	1,284	1,141	963	1,052	1,148	993
人数	154	138	133	115	223	177	165	113	150	129

（単位：冊 人数）

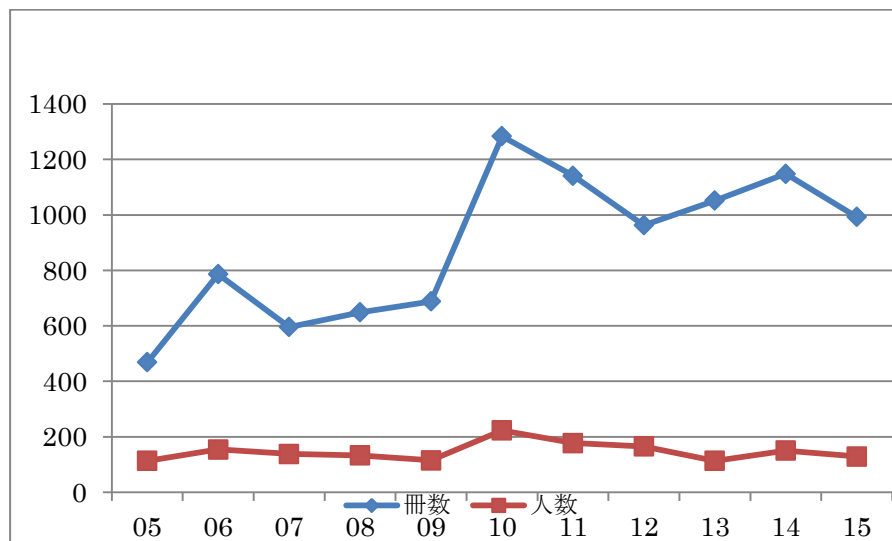


図 4 卒業生貸出冊数・人数の推移

保育センター利用者など

2006年度から夏季休業期間中、女子高校生に図書館を開放、また2008年度から、保育センター受講者並びに本学実習園の職員に対して貸出が実施されている（2007年度までは閲覧のみ）。2009年度から保育センターの特別研修「保育研究」（2011、2012年度は実施されず）でガイダンスを実施している。

附属幼稚園関係者

従来から本学附属幼稚園関係者には貸出が認められている。1998、99年度に利用のピークを記録したあと、激減。その後は、ほとんど利用がない時期がつづいたが、2010年度から利用者が大幅に増加した。2015年度は貸出冊数、利用者数が前年の倍のとなり、過去最高を記録した（図5）。横浜市には公共図書館が1区1館しか設置されていない。そのため、洋光台地区の住民は行政からの十分なサービスを受けられないからである。幼稚園の保護者は、本学が地域に貢献するための大きなヒントを示唆してくれている。

附属幼稚園関係者貸出冊数・人数

年度	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15
冊数	3	249	276	752	1,820	2,391	2,892	3,165	2,091	4,005
人数	1	51	34	112	268	304	354	409	255	538

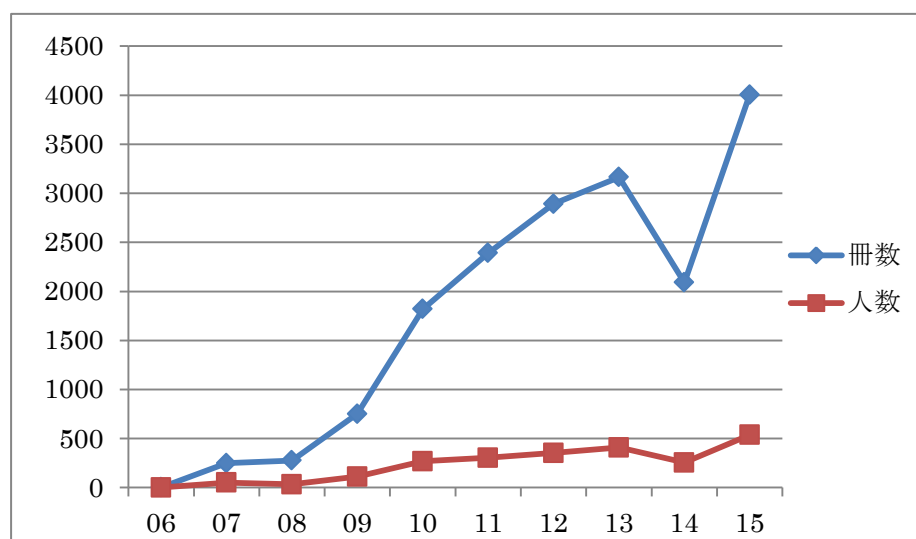


図5 附属幼稚園関係者貸出冊数・人数

相互利用

相互利用については、日本図書館協会、神奈川県図書館協会、私立短期大学図書館協議会に加盟し、他館からの協力が得られるよう態勢が整えられている。利用数の変遷は図6のとおりである。2007年10月からNII（国立情報学センター）のNACSIS-ILL（相互利用システム）に加入・運用している。

(単位：件)

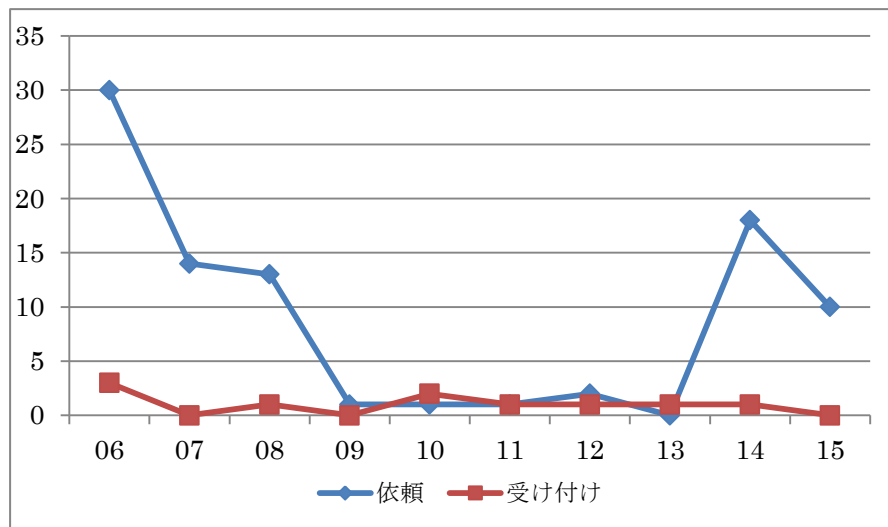


図6 文献複写件数の推移

2 総合的な自己評価

(1) 現状について

本館の施設・設備、資料（蔵書数）はともに高い水準を維持している。また、利用に関しても、2015年度における短期大学図書館全体（学生・教職員ほか）の年間貸出冊数、1館平均は5,262冊で、本館は12,719冊と平均の倍以上、上回っている（全国比較のために、2013年度の数値を用いる、以下同様）。年々、貸出冊数は年々減少しているが、本館は小規模館でありながら、依然利用に関しては高い水準を維持しているといえよう。

ホームページをリニューアルし（2014年度）、情報環境も整備され、教科担当者との連携による図書館利用（質的向上）についても、徐々に改善されつつある。

(2) 向上・充実のための課題

2015年度の本学資料費は460万円。全国平均は464万円であり平均並である。近年優れた実績をもつ短期大学が4年制に移行したり、不況により大幅な資料費削減が実施されており、短期大学図書館はきわめて厳しい状況下に置かれているといえる。本館の蔵書が12万余冊に達していることを考えると、蔵書を維持してゆくためには、新規購入と共に資料の更新をするなど最低限の資料費は必要である。学生の図書館利用の促進とともに本学図書館の将来構想を視野に入れた図書館委員会、教授会などでの十分な論議が大きな課題である。

資料の購入にあたっては、教科を担当する教員による選書が不可欠であり、選書ワーキンググループがその役割を果たすべきであるが、現在休止状態である。また学生に対する読書をすすめるためのキャンペーンとして、2007年度から「読書ラリー」を実施していたが、年々参加者数が減少したため2014年度で取りやめた。これにかわるものとして

2013 年度から絵本・ブックトークを年 2 回開催している（2015 年度は 7 月と 1 月に実施）。参加者は延べ 7 名で当日は見学者も多く好評であった。

学生の読書の実態を調査するために、2011 年度から 1 年生に 4 月のオリエンテーションで「読書アンケート」を実施している。項目は「現在、1 か月に何冊ぐらい本を読んでいますか（マンガや絵本・雑誌などは除く）」というものである（2015 年度は 4 月 2 日に実施、193 名から回答を得られた）。図 7 は 2012～2015 年度生の 1 か月の読書冊数である。これによると最近 1 か月まったく本を読んでいない（0 冊）学生は、2011、2012 年度生まではそれぞれ、50.7%、50.1%と約半数だった。しかし、2013 年度生（65.2%）以降年々増加し、2015 年度生は 73.2%までになった。一人月平均読書冊数は表のとおり年 2015 年度生は 0.5 冊まで落ち込んだ。

2011 年 11 月から始めた「読書会」は、2015 年度は定期的に 16 回開催した。参加者は延べ 15 名（学生）であった（2014 年度は 12 回、6 名）。取り上げた本について感じたことを話し合ったり、最近読んで面白かった本の紹介などの情報交流を行っているが、参加者が少ない。読書アンケートの結果からも、日常的に読書をするという習慣が身につけていないことがわかる。そこで 2015 年度後期は、「保育相談支援」（2 学年・担当教員・亀谷美代子図書館長）の授業で、教員から学生にむけて参加を呼びかけた。テーマは「新潮文庫の 100 冊を読もう」とし、取り上げる本を図書館で決めるのではなく、100 冊の中から自由に選んで読むという新しい試みであった。参加者は、面白かったところ、感動した場面、気に入った文章などのメモを準備して 5 分程度で紹介した。

最初は本を読まずに参加する学生が多く、進め方やきっかけの作り方などの趣旨説明から始める状態であったが、回数を重ねるうちに感想や本を読む楽しさなどを紹介できる学生が増えた。授業というきっかけを通して、1 冊の本を読み通した学生も少なくなく、何回か通った参加者もいた。本を読む楽しさや大切さを学生時代に身につけておいてほしいという教員の願いを受け取ることができた企画だった。

図書館利用のノウハウを 2 年生から 1 年生に伝えるために「図書館報」を活用している。2 年生から 1 年生にむけて、レポート提出時や実習の際の図書館利用法やアドバイスを掲載したり、図書委員の活動として実習に役立つおすすめの絵本などを紹介している。

さらに読書の幅を広げてもらおうと、展示「館員おすすめの本」では、館員が毎月交替で様々なテーマで、読んでほしい本のブックリストとともに展示をしている。

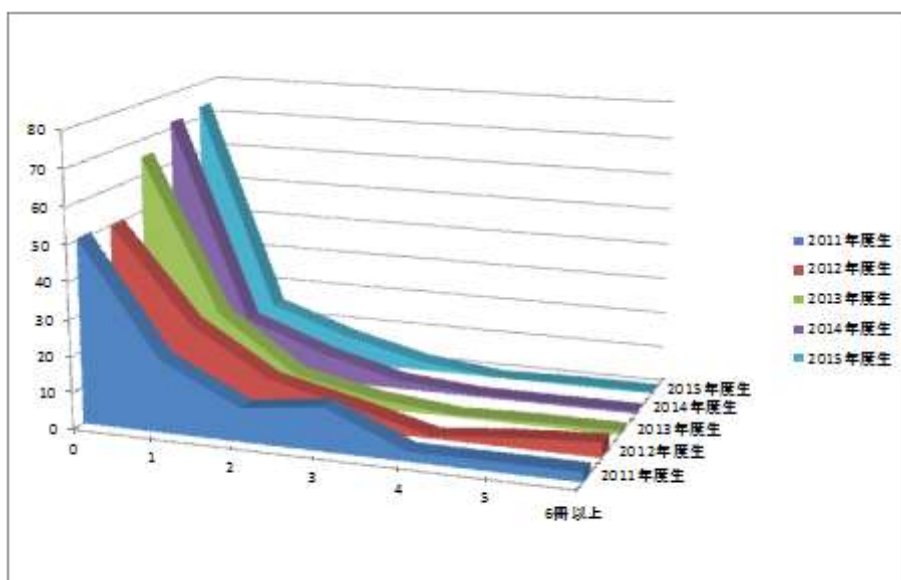


図7 1か月の読書冊数 2012-2015年度生（学生）

1か月の平均読書冊数

年度生	2011	2012	2013	2014	2015
平均冊数	1.3冊	1.4冊	0.6冊	0.5冊	0.5冊

2015年度読書会プログラム

回数	日時	取り上げた本
第1回	4.23	夏目漱石『三四郎』新潮文庫 1948
第2回	5.13	中勘助『銀の匙』小学館文庫 2012
第3回	5.27	オルコット『若草物語』岩波少年文庫 2014
第4回	6.10	フィリップ・ピアス『トムは真夜中の庭で』岩波少年文庫 2013
第5回	7.1	R・ゴッデン『台所のマリアさま』評論社 1976
第6回	7.15	石牟礼道子『苦海浄土』講談社文庫 2004
第7回	7.29	村上春樹『海辺のカフカ』新潮社 2002
第8回	11.2	「新潮文庫の100冊」を読みましょう
第9回	11.9	
第10回	11.16	
第11回	11.30	
第12回	12.7	
第13回	12.14	
第14回	12.21	
第15回	1.18	
第16回	1.25	

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

施設面では、蔵書の増加に対する書庫の拡充もしくは書庫スペースの確保が課題としてあるほか、教員閲覧室が「教員室」に変更されて以降、教員には研究・調査などのための施設が十分に確保されていないことである。これらについては図書館委員会ではある程度の共通理解が得られているが、全学的な合意形成が得られるまでには至っていない。図書館が学生・教職員の教育・研究のための機能を果たすためには、大学全体にどのように位置づけられるべきかなど基本的な構想が必要な時期に来ている。なお、教員の研究、学生の学習活動などの環境改善のために、図書館委員会から総教授会に対して、学内に将来計画委員会（案）を設置して、長期のマスタープランを全学で検討するよう提案することも計画されていたが、実現していない。

「短期大学評価基準」（2004年10月制定、2008年5月改訂 短期大学基準協会）

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

評価項目3 図書館もしくは学習資源センター等が整備されていること

(1) 図書館（以下、学習資源センター等を含む）の蔵書数、学術雑誌数、AV資料数及び座席数等は、在籍学生数に比し適当か。

(2) 図書館の広さは充分であり、その環境は適切に整備されているか。また蔵書数の増加等、将

来に備えたものとなっているか。

(3) 年間の図書（以下、学術雑誌、AV資料等を含む）購入予算は充分か。また購入図書選定システムや廃棄システムは確立しているか。

(4) 図書館には学生が利用できる参考図書、関連図書は十分に備えられているか。

(5) 司書数、司書の能力、図書検索システムなどを含む、図書館のサービス体制は充分か。

(6) 学生の図書館利用を活発にするための努力は行っているか。

(7) 学内外への情報発信、他の図書館との相互利用活動など、図書館活動は活発か。

付記

月別の貸出冊数

月別の貸出冊数について、年度ごとに示したのが図8、これを2015年度について、学年別に見たのが図9である。

年度ごとの変化を見ると、毎年利用が減少している様子がわかる。学年別では、2年生（赤）が前期2度の実習（6月、9月）の前に利用が集中し、後期は冬の行事の取り組みの影響などにより、利用が減少していることがわかる。1年生は学年当初の立ち上がりは遅いが実習前の8月、2月に利用が増加している。

（単位：冊）

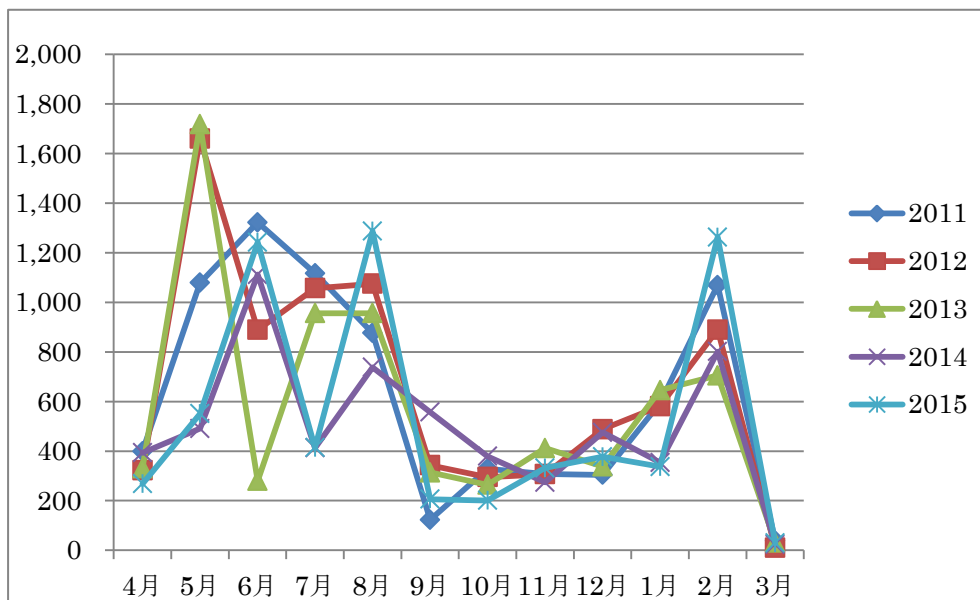
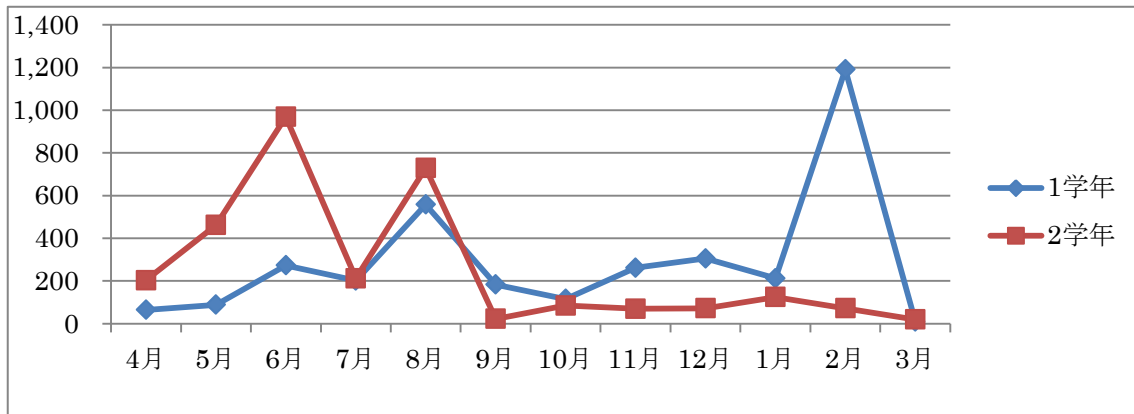


図8 月別貸出冊数の推移 2011-15年度（学生）

(単位：冊)



2015年度月別貸出冊数 (学年別)

蔵書冊数・受入冊数と貸出冊数との関係

2015年度における蔵書冊数・受入冊数と貸出冊数との関係を全体の割合で示したのが、次の表と図 10 である。当館の主要教科に関する図書が分類されている「3 社会科学」(保育・幼児教育など)「7 芸術」(絵本、楽譜など)の貸出全体に占めるその割合は、それぞれ 23.8%、54.8%。これを合わせると 78.6%になる。全蔵書数に占める冊数の比率が 44.3%、受入冊数は 57.8%であり、これらを大きく上回っていることがわかる。

蔵書冊数・受入冊数・貸出冊数の比較

(単位：%)

	0総記	1哲学	2歴史	3社会	4自然	5技術	6産業	7芸術	8言語	9文学	合計
蔵書数	11.5	5.5	4.3	31.8	6.3	2.7	0.6	12.5	2.2	22.6	100.0
受入数	15.0	2.9	2.8	30.3	3.8	2.9	1.1	27.5	0.4	13.3	100.0
貸出数	0.6	1.2	0.6	23.8	2.9	2.7	0.6	54.8	0.4	12.4	100.0

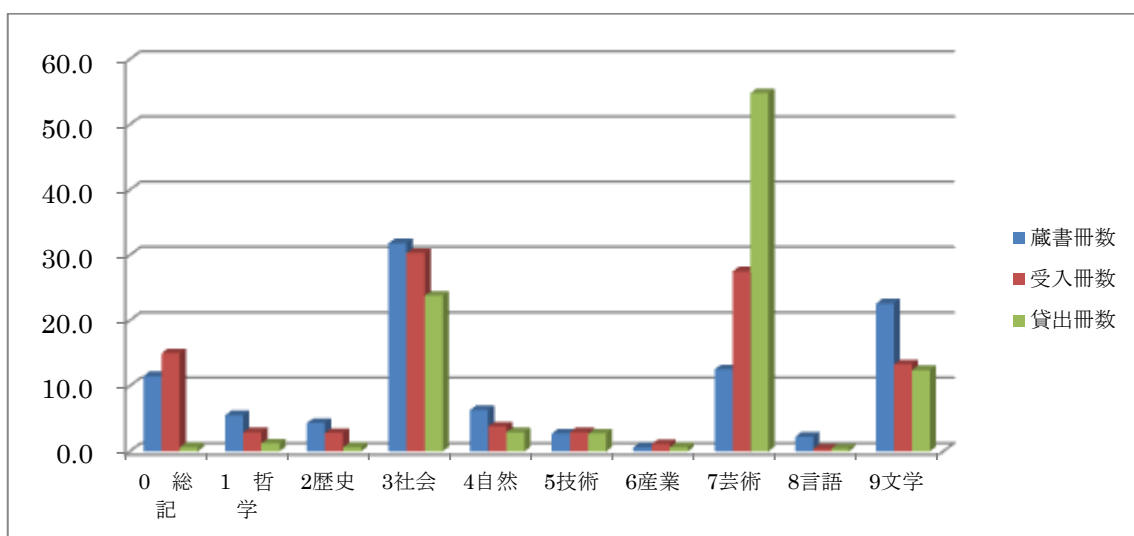


図 10 蔵書冊数・受入冊数・貸出冊数の比較

蔵書冊数に占める社会科学・芸術の貸出冊数の占める割合 (単位：%)

年度	蔵書冊数	貸出冊数	貸出／蔵書
2011	43.6	79.3	182
2012	43.6	77.6	178
2013	43.8	80.5	184
2014	44.1	81.0	184
2015	44.3	78.6	177

貸出される図書の多くは、主に実習のための利用であり、次にレポートの出される教科である。上記のことは、授業内容が貸出しに大きく影響していることを物語っている。学生の利用傾向の変化については、詳細な分析が必要であり、このこと自体をどのように考えたらよいかさらに検討を要するが、図書館の運営や収集方針にその原因があるとの見方も検討されなければならないだろう。実際に専門書・一般図書の受入冊数が減少、一方で低廉な図書、実用書の受入冊数が増加していることは否定できない。それが学生の利用に直接に反映しているとの推察は一概にできないとしても、何らかの関係があるとの可能性も捨てきれないであろう。

年間貸出冊数は短大平均を大幅に上回ってはいるが、量的にはほぼ利用の上限に達しているよう。そろそろ図書館が授業との連携の上に立った運営方針を明確にして、質的な転換を目指す時期に来ていると思われる。それには本学の今後の教育のあり方を検討するなかで、保育者養成の将来像を見据え、保育者の専門性向上のための図書館のサポートシステムが共有の課題として論議される必要があるのではないだろうか。

第2部 資料編

I 図書館業務報告

1 図書館利用

(1) 利用案内

開館時間

平日 9:00～18:20

*前期－授業のある土曜日・祝日 10:00～15:00

休館日 日曜日、祝日、本学行事の日、開館日以外の土曜日、休暇中の一定期間

貸出 学生：10冊－2週間 教職員：50冊－2週間、研究用図書－1年

卒業生、10冊－1か月 館長が許可した者、3冊－2週間

(2) 利用者サービス

①オリエンテーション 1年、2年（4月）

②OPAC利用説明（4月実施）

③広報 『図書館ガイド2015』、『図書館ガイド』（カラー版、学外PR用）、『情報へのアクセス』（2009年7月発行）、『図書館報』第190～195号、『保育者になるための読書ガイド&これから社会に出て、仕事に就く人のための学びの道への開かれた扉 2016』

④他機関の利用 文献複写、他研究機関の紹介。研究者には「神奈川県大学図書館共通閲覧証」を発行。

2 図書館の歩み

1966年1月 横浜女子短期大学が設置認可、図書館が置かれる（横浜市南区中村町）

1979年2月 横浜市港南区に校舎・図書館新築移転

1987年10月 同上敷地内に新図書館落成

コンピュータ導入

1988年6月 コンピュータ機器導入（第1期）、CD-ROMによる図書データ作成開始

1990年9月 図書館コンピュータ・システム（ブレインテック「情報館」）導入（第2期）閲覧・整理業務開始。10-NETによる。端末機4台（事務室2、閲覧1、利用者端末1）

1994年4月 図書館コンピュータ・システム更新（第3期）、LANによるコンピュータ・ネットワーク・システム。サーバー機1、端末機3台を導入（トータルで、事務室3、閲覧1、利用者端末3）

1995年11月 図書館コンピュータ・システム更新（第4期）、Windows版対応ソフト。新型の端末機5台を導入（トータルで、事務室4、閲覧1、利用者端末3）

1997年3月 学術情報センター（NACSIS、現国立情報学研究所（NII））と接続

1999年9月 図書館コンピュータ・システム更新（第5期）、Windows 98 版対応ソフト。新型の端末機1台を導入（トータルで、事務室3、閲覧2、利用者端末4）

2004年3月 図書館コンピュータ・システム更新（第6期）、新型のサーバー機、事務室3台、閲覧2台を導入。クライアント5台は、Windows XP 対応（トータルで、事務室3、閲覧2、利用者端末4）

2005年12月 図書館コンピュータ・システム更新（第7期）、OPAC4台（入替）、インターネット検索性4台増設など

2008年3月 図書館コンピュータ・システム更新（第8期）、新型のサーバー機、事務室3台、閲覧2台を更新。

2010年3月 図書館コンピュータ・システム更新（第9期）、Windows 7 対応、OPAC4台（入替）、インターネット検索性4台、ノートパソコンを更新

2013年3月 図書館コンピュータ・システム更新（第10期）、新型サーバー機、事務室3台、閲覧2台を更新

2015年3月 図書館コンピュータ・システム更新（第11期）、Windows 8.1 対応、インターネット検索性8台、ノートパソコンを更新

2015年6月 インターネット検索性8台のうち、2台を館内 OPAC へ変更

3 組織・運営

（1）職員構成

図書館長代行 亀谷美代子

図書館課長（司書） 奥泉和久、主任（司書）高橋和子、同 原真由美、派遣 大久保美玲（3月～）

（2）図書館委員会

委員長 亀谷美代子（館長代行）、委員 佐藤寛之、篠原万喜子、スティーヴン・トムソン、本多幸、細野美幸、奥泉和久（図書館員）

（3）図書館委員会の開催（承認・報告）

2015年度、委員会は開催せず、稟議書、お知らせを回して承認を得た。

2015年7月17日 承認・報告

承認「図書館自己点検・評価報告書 2014年度版」（案）

報告 3月31日付総務部長「示達書」、4月10日付「図書館報告」（3月31日現在）、「2015年度定期雑誌一覧」など

2016年3月7日 承認・報告

承認（議案に相当）

1 図書の廃棄について

2 資料の購入について

報告 1月28日付「2・3月の開館時間について」、3月3日付「蔵書点検報告」確認

表付き、など

(4) 図書委員 (学生)

人数

1 学年 8 名、2 学年 8 名

活動内容

1・2 学年 5 月 18 日 (委員会の仕事について)、7 月 15 日 (選書ツアー、読書会、ブックトークへの参加など)

(5) 加盟団体

日本図書館協会、神奈川県図書館協会、神奈川県内大学図書館相互協力協議会、私立短期大学図書館協議会に加盟。

(6) 図書館事務分掌

図書館事務分掌については、次のとおりである。

管理

	区分	業務名	業務内容
1	1 企画	図書館委員会	図書館委員会の運営に当たり、議案の立案、報告内容の検討など会運営に必要な事項を整理し準備する。事務作業には、開催案内、委員の招集、会議場所の設定、会議の開催、会議資料の作成、議事録の作成などがある。委員会は、定例が年6回開催。図書館からは館長、館長が推薦する者1名が委員会委員となる。
2	1 企画	図書委員会 (学生)	図書委員会の運営に当たり、議題の企画・立案を整理し準備する。事務作業には、開催案内、委員の招集、会議の開催、会議資料の作成、会議の内容を館長に報告する。
3	1 企画	図書館業務企画立案	図書館業務の企画・立案の重要な柱となるのは「図書館年間計画」である。これらが図書館委員会で論議され、館運営の指針となる。年間計画は、短・中・長期的計画から成り、それらが適切に図書館運営に反映されるよう配慮されなければならない。
4	1 企画	予算立案	本館の予算は、図書館委員会の協議事項になっている。そのため、予算立案は「図書館年間計画 (案)」においてなされる。そこで、前年度の実績を参考に、「計画 (案)」に提案するための資料の作成を行う。
5	1 企画	図書館システムの構築 (変更)	現行の図書館システムについて、適宜見直しを行い、改善計画を立案し、システムの変更を計画する。
6	1 企画	研修計画	図書館員の専門性の向上のために、業務に必要な研修計画の立案を行う。
7	1 企画	自己点検・評価報告書作成	図書館の毎年の業務の報告書を作成する。現在、「図書館自己点検・評価」「図書館利用者満足度調査分析」で構成される。
8	2 運営	書庫管理 図書	書架の配架状況を勘案し、書庫への移動を行う。図書には、「書庫」の押印をし、データには保管場所を入力する。
9	2 運営	書庫管理 新聞・雑誌	新聞は、1か月から数か月単位で、事務室収納分を書庫へ移動。雑誌は、雑誌架に収納されている分を1年単位で書庫へ移動。

10	2 運営	書架整理	資料の収蔵状況を把握し、全書架の配置を管理し、増加に応じて書架上の整理を行う。
11	2 運営	選書	出版・販売情報などの資料をもとに、資料の選択をする。選書ワーキンググループにより選書された資料、教員からの選書・リクエスト、学生のリクエストなどを集約する。
12	2 運営	選書ツアー（学生）	年2回程度、学生の希望者を募り、書店で選書を行う。同行する学生に選書計画などを説明して、現地で指導を行う。
13	2 運営	図書・雑誌発注	選書されたリストにもとづいて、発注業務を行う。
14	2 運営	納品の検収、配置	業者から納品された資料を、納品書と照合し、受理し、所定の位置に配置する。
15	2 運営	蔵書管理 蔵書点検	蔵書が整理され、常に停滞することなく利用に供されているかを管理する。現在は、年1回定期的な蔵書点検を実施しているが、必要に応じて調査を実施する場合がある。
16	2 運営	図書除籍処理	「図書館収集・管理規程」にしたがって、除籍を行う。
17	2 運営	図書館協力	図書館間の相互貸借のための手続きを行う。必要に応じ県内大学図書館相互利用のための、「共通閲覧券」や紹介状発行など。
18	2 運営	各種案内、掲示	必要に応じ、図書館利用に関することなどを館内に掲示する。
19	3 統計	調査・照会などの集計	利用統計、相互貸借などについて、月計、年間統計のための資料を整理し、集計する。
20	3 統計	利用者アンケート調査、集計	学生アンケート（毎年1回実施）について、調査項目を確認し、実施する。回収した調査票を集計し、評価を行う。
21	3 統計	資料の増減冊数集計	図書館資料（図書、新聞・雑誌、AV資料など）について、年間の受入資料数と廃棄数を算出し、統計資料を更新する。
22	3 統計	閲覧・貸出等についての集計	図書館利用状況について集計し、月計、年間の別に集計する。
23	4 庶務	会計総管理	図書館で発注した備品、消耗品のうちで図書館が管理する物品などに関する、支払い業務。購入した物品などの見積書、納品書、請求書などの関連書類一式を総務課に提出するまでの業務。
24	4 庶務	コピー料金の管理、集計	利用者用コピー機の料金について月計、年間統計のための資料を整理し、集計する。
25	4 庶務	備品・消耗品、出納・保管	事務作業の必要に応じ、備品、消耗品などの出納・保管を行う。
26	4 庶務	寄贈図書受信	寄贈された資料について受理する作業を行う。
27	4 庶務	研究紀要発送先名簿管理	本学研究紀要の交換資料先の機関の名簿を作成、更新する。
28	4 庶務	研究紀要発送作業	本学研究紀要を交換先の機関に発送する。
29	4 庶務	業務日誌	毎日の業務状況を記録する。
30	4 庶務	郵便物の收受、発送および保管	図書館あてに送付された郵便物の受理、および必要な発送などを行う。
31	4 庶務	館内美化、衛生・火気取締り	館内の美化に努め、衛生状況、火気取り締まりを行う。

整理

1	1 図書	図書発注（発注、重複調査）	発注予定の資料について、重複がないかを調査し、発注する。
2	1 図書	図書検収	納品された資料について（検収）、発注書と照合し、異同がないかを点検する。
3	1 図書	図書登録	図書を蔵書として登録する。
4	1 図書	図書データ入力（DLなど）	図書データ入力（ダウンロードなど）INN（国立情報学研究所）などのデータをDLし、ローカルデータを付与する。
5	1 図書	図書装備	図書に閲覧に必要な装備を行う。
6	1 図書	図書配架（新着図書）	利用に供するために、新着図書については新着書架に配架する。
7	1 図書	図書修理	補修の必要な図書館資料については、適宜修理する。必要に応じて業者に発注する。
8	1 図書	図書分類訂正	図書の分類の調整、修正など変更が生じた場合、これを訂正する。
9	2 逐刊	雑誌受入、登録など	雑誌の受入ファイルにデータを登録し、利用に必要な装備を行う。
10	2 逐刊	新聞受入、配架など	新聞は、毎日当日分の配架、前日分の事務室内収納を行う。
11	2 逐刊	研究紀要受入、登録など	交換によって受理した研究紀要の受け入れ業務を行う。
12	2 逐刊	製本雑誌、発注、検収、登録	長期保存が必要な資料（雑誌など）については、製本を行う。その際に、業者に発注するための業務を行う。
13	2 逐刊	製本雑誌データ入力	製本済みの資料（雑誌など）について、管理のためのデータ入力を行う。

利用者サービス

	区分	業務名	業務内容
1	1 サービス	カウンター業務（貸出など）	サービスカウンターにおいて、閲覧、貸出、レファレンスサービスなどのための業務全般を行う。
2	1 サービス	督促	図書などの資料の返却の延滞者に対して、督促を行う。
3	1 サービス	AVサービス	AV資料の閲覧などのために手続きを行う。
4	1 サービス	レファレンスサービス	利用者の求めに応じ、質問に対する回答業務を行う。即答できない場合は、調査の上回答する。
5	1 サービス	リクエストサービス	利用者の要望に応じて、リクエストを受け付ける。これを検討したうえで、購入などによって資料要求に応える。
6	1 サービス	複写サービス	利用者の必要に応じて、著作権法の許可された範囲内の複写を行う。
7	1 サービス	閲覧室図書の配架、移動、整理	返却された資料の配架を行う。書架上の整理、また、必要に応じて、書架上の資料の移動を行う。また、利用者が支障なく利用できるよう、適切に資料が書架などに配架されているか、日常的に書架上の資料の整理を行う。
8	1 サービス	図書館カレンダー	図書館の開館時間を明記したカレンダーを利用者向けに作成する。
9	1 サービス	ホームページ	図書館からのお知らせなど随時更新、各プログラム動作のチェック、確認を行う。
10	2 利用教育	利用案内、マ	図書館利用のための案内などを作成する。

		ニューアル作成	
11	2	利用教育 新入生のオリエンテーション	新入生を対象に図書館利用の初歩的な説明を行う。
12	2	利用教育 館内オリエンテーション	新入生を対象に図書館利用の貸出・返却、館内の案内などの説明を行う。
13	2	利用教育 教員の依頼による図書館ガイダンス	授業のための図書館利用など、必要に応じ、教科担当の教員依頼に応じて、利用、資料の検索など図書館ガイダンスを行う。
14	2	利用教育 学生便覧（図書館原稿）	学生便覧のための原稿作成を行う。
15	3	相互協力 相互貸借（相互利用、依頼、受付）	本館に資料がない場合には、他館を紹介する。そのために紹介状の発行などの手続きを行う。また、学外者の本館の利用に当たり必要な諸手続を行う。
16	3	相互協力 文献複写（依頼、受付）	本館に資料がない場合には、他館に資料の複写を依頼する。また、依頼を受けた場合はこれに応じる。そのための諸手続を行う。
17	4	広報 図書館報	図書館の広報の一環として、図書館報を編集、発行する。必要に応じて、自家製版を発行する。
18	4	広報 広報資料、パスファインダーなどの資料作成	『情報へのアクセス』、各種パスファインダーなど図書館利用を促進するための資料を作成する。
19	4	広報 展示	適宜、展示を行う。

(7) 図書館事務分担

図書館の事務分担については、次のとおりである。

管理

	区分	業務内容	担当者			
			館長	奥泉	高橋	原
1	1 企画	図書館委員会	◎	◎		
2	1 企画	図書委員会（学生）			○	○
3	1 企画	図書館業務企画立案	◎	◎		
4	1 企画	予算立案	◎	◎		
5	1 企画	図書館システムの構築（変更）		○	○	
6	1 企画	研修計画		○	△	△
7	1 企画	自己点検・評価報告書作成		○	○	○
8	2 運営	書庫管理 図書		○	△	△
9	2 運営	書庫管理 新聞・雑誌		△	○	△
10	2 運営	書架整理		○	○	○
11	2 運営	選書（含、ワーキンググループ）		◎	△	△
12	2 運営	選書ツアー（学生）			◎	
13	2 運営	図書・雑誌発注			○	◎
14	2 運営	納品の検収、配置		△	○	◎
15	2 運営	蔵書管理 蔵書点検		○	○	○
16	2 運営	図書除籍処理		◎		
17	2 運営	図書館協力			○	○
18	2 運営	各種案内、掲示			△	◎
19	3 統計	調査・照会などの集計			○	○

20	3	統計	利用者アンケート調査、集計			△	◎
21	3	統計	資料の増減冊数集計			○	○
22	3	統計	閲覧・貸出等についての集計				◎
23	4	庶務	会計総管理			◎	△
24	4	庶務	コピー料金の管理、集計				○
25	4	庶務	備品・消耗品、出納・保管			○	
26	4	庶務	寄贈図書受信			◎	
27	4	庶務	研究紀要発送先名簿管理			○	
28	4	庶務	研究紀要発送作業		○	○	○
29	4	庶務	業務日誌				○
30	4	庶務	郵便物の収受、発送および保管			○	○
31	4	庶務	館内美化、衛生および火気取締り		○	○	○

整理

	区分	業務内容	担当者				
			館長	奥泉	高橋	原	
1	1	図書	図書発注（発注、重複調査など）		△	◎	○
2	1	図書	図書検収（伝票照合など）		△	○	◎
3	1	図書	図書登録			○	◎
4	1	図書	図書データ入力（ダウンロードなど）			◎	
5	1	図書	図書装備		◎		
6	1	図書	図書配架（新着図書などを含む）			◎	◎
7	1	図書	図書修理			○	
8	1	図書	図書分類、訂正			◎	○
9	1	図書	図書等、原簿作成			◎	
10	2	逐刊	雑誌受入、登録など			◎	
11	2	逐刊	新聞受入、配架など			○	○
12	2	逐刊	研究紀要受入、登録など			◎	
13	2	逐刊	製本雑誌、発注、検収、登録			◎	
14	2	逐刊	製本雑誌データ入力			◎	

利用者サービス

	区分	業務内容	担当者				
			館長	奥泉	高橋	原	
1	1	サービス	カウンター業務（貸出、返却など）		○	○	○
2	1	サービス	督促			◎	
3	1	サービス	AVサービス		△	△	△
4	1	サービス	レファレンスサービス		○	○	○
5	1	サービス	リクエストサービス		△	△	◎
6	1	サービス	複写サービス		△	○	◎
7	1	サービス	図書の配架、整理、移動（閲覧室）			○	○
8	1	サービス	図書館カレンダー			○	
9	1	サービス	ホームページ管理			○	
10	2	利用教育	利用案内、マニュアル作成		△		○
11	2	利用教育	新入生のオリエンテーション			△	◎
12	2	利用教育	館内オリエンテーション			○	◎
13	2	利用教育	教員の依頼による図書館ガイダンス			△	◎
14	2	利用教育	入学者を対象にした図書館ガイダンス			△	○
15	2	利用教育	学生便覧（図書館原稿）			△	△
16	2	利用教育	利用教育ワーキンググループ			—	—

17	3	相互協力	相互貸借（相互利用、依頼、受付）			○	
18	3	相互協力	文献複写（依頼、受付）			○	
19	4	広報	図書館報		△		◎
20	4	広報	広報資料、パスファインダーなどの作成		△		◎
21	4	広報	展示				◎
22	4	広報	読書会		○	○	○

◎主な担当 ○担当 △部分担当

4 業務・活動記録

年間業務・活動／利用教育／委員会活動等／研修会等参加記録

	対象	項目	記 事
2015/4/1	1全学	館報	「図書館報」(第190号)、「図書館ガイド2016」発行
2015/4/1	2学生	教育	オリエンテーション(2学年)
2015/4/2	2学生	教育	オリエンテーション(1学年)
2015/4/2	1全学	事務	除籍展示(～4.8)
2015/4/7	2学生	教育	館内オリエンテーション(1学年)、コンピュータ検索オリエンテーション(1・2学年)(～4.24)
2015/4/23	2学生	利用	第1回読書会 夏目漱石『三四郎』
2015/5/1	1全学	館報	「図書館ガイド2015」(カラー版)発行
2015/5/7	1全学	学生	リサイクルフェア(～5.13)
2015/5/13	2学生	利用	第2回読書会 中勘助『銀の匙』
2015/5/18	2学生	教育	図書委員会(第1回-1・2学年)
2015/5/20	5その他	利用	保育センター研修「保育研究」図書館利用ガイダンス(18名)
2015/5/23	2学生	利用	長期貸出実施、2年生/15冊(～5/29 返却日7.3)
2015/5/23	1全学	学生	実習に使える本フェア開催
2015/5/27	2学生	利用	第3回読書会 オルコット『若草物語』
2015/5/29	2学生	選書	第1回選書ツアー(学生8名、有隣堂 15:30～17:00)
2015/6/1	2学生	利用	長期貸出実施、2年生/20冊(返却日7.3)
2015/6/10	2学生	利用	第4回読書会 フィリップ・ピアス『トムは真夜中の庭で』
2015/6/15	2学生	授業	「乳児保育」1学年2限 授業内ガイダンス
2015/6/18	2学生	授業	「乳児保育」1学年1・2・3限 授業内ガイダンス
2015/7/1	2学生	利用	第5回読書会 R・ゴッデン『台所のマリアさま』
2015/7/15	2学生	利用	第6回読書会 石牟礼道子『苦海浄土』
2015/7/15	2学生	教育	図書委員会(第2回-1・2学年)
2015/7/21	2学生	利用	第1回 絵本・ブックトーク 参加者5名
2015/7/22	2学生	利用	長期貸出実施、1・2年生/15冊(～7/28 返却日9.30)
2015/7/22	1全学	学生	実習に使える本フェア開催
2015/7/28	1全学	館報	「図書館報」(第191号)、(号外)発行
2015/7/29	2学生	利用	第7回読書会 村上春樹『海辺のカフカ』
2015/7/29	2学生	利用	長期貸出実施、1・2年生/20冊(返却日9.30)
2015/8/1	4図書館	事務	「自己点検・評価報告書2014年度」発行
2015/8/1	4図書館	利用	女子高校生のための図書館利用(～8.31)
2015/8/3	2学生	利用	後期定期試験開館時間延長(8:30～17:00、8/5)
2015/8/31	4図書館	研修	横浜愛隣幼稚園 原
2015/9/6	4図書館	研修	日本図書館文化史研究会 奥泉(白百合女子大学)
2015/9/8	1全学	事務	蔵書点検(～9.11)
2015/10/1	3教員	教育	学生に対する図書などの紹介(お願い)、授業内ガイダンス申込書
2015/10/1	1全学	利用	展示 「ガンバレ、ヨコタン生！」就職支援コーナー
2015/10/1	1全学	利用	「戦後70年を迎えて」

2015/10/6	1全学	事務	全教職員蔵書点検(～10.31)
2015/10/15	4図書館	研修	全国図書館大会東京大会 原(国立オリンピック記念青少年総合センター)(～10.16)
2015/10/26	1全学	館報	「図書館報」(第192号)発行
2015/11/2	2学生	利用	第8回読書会「新潮文庫の100冊」を読んでもみよう
2015/11/9	2学生	利用	第9回読書会「新潮文庫の100冊」を読んでもみよう 参加者1名
2015/11/12	4図書館	研修	図書館総合展・ブレインテックユーザー会 高橋(パシフィコ横浜)
2015/11/13	1全学	館報	「図書館報」(第193号)発行
2015/11/16	2学生	利用	第10回読書会「新潮文庫の100冊」を読んでもみよう 参加者1名
2015/11/18	2学生	選書	第2回選書ツアー(学生8名、紀伊国屋書店(そごう店) 14:40～17:00)
2015/11/30	2学生	利用	第11回読書会「新潮文庫の100冊」を読んでもみよう
2015/12/2	2学生	図書館	「図書館利用に関するアンケート」実施 2年生103名
2015/12/7	2学生	利用	第12回読書会「新潮文庫の100冊」を読んでもみよう 参加者5名
2015/12/14	2学生	利用	第13回読書会「新潮文庫の100冊」を読んでもみよう 参加者2名
2015/12/15	1全学	館報	「図書館報」(第194号、別冊)発行
2015/12/16	2学生	利用	長期貸出実施、1・2年生/15冊(～12.22 返却日1.8)
2015/12/21	2学生	利用	第14回読書会「新潮文庫の100冊」を読んでもみよう 参加者4名
2016/1/18	2学生	利用	第15回読書会「新潮文庫の100冊」を読んでもみよう
2016/1/22	2学生	選書	第3回選書ツアー(学生4名、紀伊国屋書店(そごう店) 14:40～18:00)
2016/1/25	2学生	利用	2年生貸出(返却日2.8)
2016/1/25	2学生	利用	第16回読書会「新潮文庫の100冊」を読んでもみよう 参加者2名
2016/1/25	2学生	利用	第2回 絵本・ブックトーク 参加者2名
2016/1/26	2学生	利用	「図書館報」(第195号)、「保育者になるための読書ガイド&これから社会に出て仕事に就く人のために 2016」発行
2016/1/28	1全学	館報	1年生長期貸出実施/15冊(返却日4.8)
2016/1/28	1全学	学生	実習に使える本フェア開催
2016/2/4	2学生	利用	1年生長期貸出実施/20冊(返却日4.8)
2016/2/4	2学生	利用	後期定期試験開館時間延長(8:30～17:00、～2/5・8)
2016/2/9	2学生	図書館	「図書館利用に関するアンケート」実施 1年生171名
2016/2/21	4図書館	研修	日本図書館研究会 第57回研究大会 奥泉(立命館大学)
2016/3/28	3教員	教育	学生に対する図書などの紹介(お願い)、授業内ガイダンス申込書

5 各種統計

(1) 資料費の推移

年度		図書	図書以外	合計
2006	18	3,341	1,859	5,200
2007	19	2,789	2,409	5,198
2008	20	3,464	1,734	5,198
2009	21	3,725	1,470	5,195
2010	22	3,066	1,534	4,600
2011	23	3,084	1,516	4,600
2012	24	3,099	1,501	4,600
2013	25	2,949	1,651	4,600
2014	26	3,288	1,312	4,600
2015	27	3,209	1,391	4,600

(2) 資料の変遷 受入図書 冊数・蔵書 冊数

年度		和書 総数	寄贈(内数)	洋書 総数	寄贈(内 数)	合計	除籍冊数	蔵書数
2006	18	2,350	279	0	0	2,350	1,493	106,682
2007	19	2,405	739	0	0	2,405	1,263	107,824
2008	20	2,878	474	16	0	2,894	1,003	109,715
2009	21	2,730	341	9	0	2,739	339	112,115
2010	22	2,544	535	1	0	2,545	448	114,212
2011	23	2,409	506	3	0	2,412	526	116,098
2012	24	2,356	521	0	0	2,356	526	117,928
2013	25	2,400	615	0	0	2,400	350	119,978
2014	26	2,491	436	28	28	2,519	456	122,041
2015	27	2,551	510	1	0	2,552	493	124,100
						144,425	20,325	

(3) AV 資料所蔵数

年度		ビデオ テープ	DVD	カセット テープ	CD	CD-R OM	紙芝居	ピアノ ピース	スライ ド
2006	18	4	10	0	6	1	21		
2007	19	6	19	0	22	0	44		
2008	20	0	27	0	79	0	199	1	
2009	21	0	45	0	26	0	29	0	
2010	22	0	54	0	17	0	89	0	
2011	23	0	20	0	36	0	24	0	
2012	24	0	40	0	49	1	30	0	
2013	25	0	7	0	8	0	197	0	
2014	26	0	33	0	30	0	34	0	
2015	27	0	4	0	1	0	138	0	
小計		593	552	222	1,444	15	2,562	492	
除籍・欠番		0	0	0	-2	-4	-44	0	
合計		593	552	222	1,442	11	2,518	492	18

(4) 貸出冊数の推移

年度		学生数	学生	教員	卒業生	部署	授業	附幼保	保セ	他	合計
2006	18	471	16,396	1,231	786	83	63	3	25	8	18,595
2007	19	407	14,441	1,197	596	68	0	249	89	3	16,643
2008	20	374	11,085	1,212	649	47	142	276	79	18	13,508
2009	21	315	9,189	1,287	688	52	60	752	269	3	12,300
2010	22	292	7,280	1,245	1,284	31	49	1,820	302	1	12,012
2011	23	345	7,558	1,023	1,141	51	53	2,391	138	7	12,362
2012	24	374	7,917	1,052	963	110	71	2,892	212	37	13,254
2013	25	368	6,950	982	1,052	5	23	3,165	496	46	12,719
2014	26	364	6,010	996	1,148	428	108	2,091	370	1	11,152
2015	27	365	6,507	749	993	698	123	4,005	311	2	13,388

1985-93：図書のみデータ、1994-98：雑誌を加える、1999以降：AV資料を加える

附幼保：附属幼稚園保護者、保セ：保育センター受講者、他：高校

(5) AV資料利用の推移(学生)

年度		ビデオ	DVD	カセット	CD	CD-ROM	紙芝居
2006	18	19	209	0	276	0	1,471
2007	19	9	112	0	209	0	1,506
2008	20	15	211	0	288	0	1,768
2009	21	7	299	0	236	0	1,029
2010	22	3	261	0	151	0	680
2011	23	6	224	0	153	0	877
2012	24	5	175	0	97	0	772
2013	25	9	196	0	65	0	584
2014	26	13	238	0	53	0	304
2015	27	1	181	0	48	0	693

* DVD、ビデオは館内閲覧、CDは貸出・閲覧の合計

(6) 相互貸借(複写)

年度		文献複写		他館利用		図書貸借	
		依頼	受付	依頼	受付	依頼	受付
2006	18	30	3	4	0		
2007	19	14	0	2	2		
2008	20	13	1	2	0		
2009	21	1	0	0	0		
2010	22	1	2	0	0		
2011	23	1	1	0	0	0	1
2012	24	2	1	0	0	0	0
2013	25	0	1	1	0	0	1
2014	26	18	1	1	1	0	1
2015	27	10	0	0	0	3	1

(7) 予約図書

年度		冊数
2006	18	75
2007	19	22
2008	20	52
2009	21	22
2010	22	25
2011	23	19
2012	24	18
2013	25	8
2014	26	11
2015	27	9

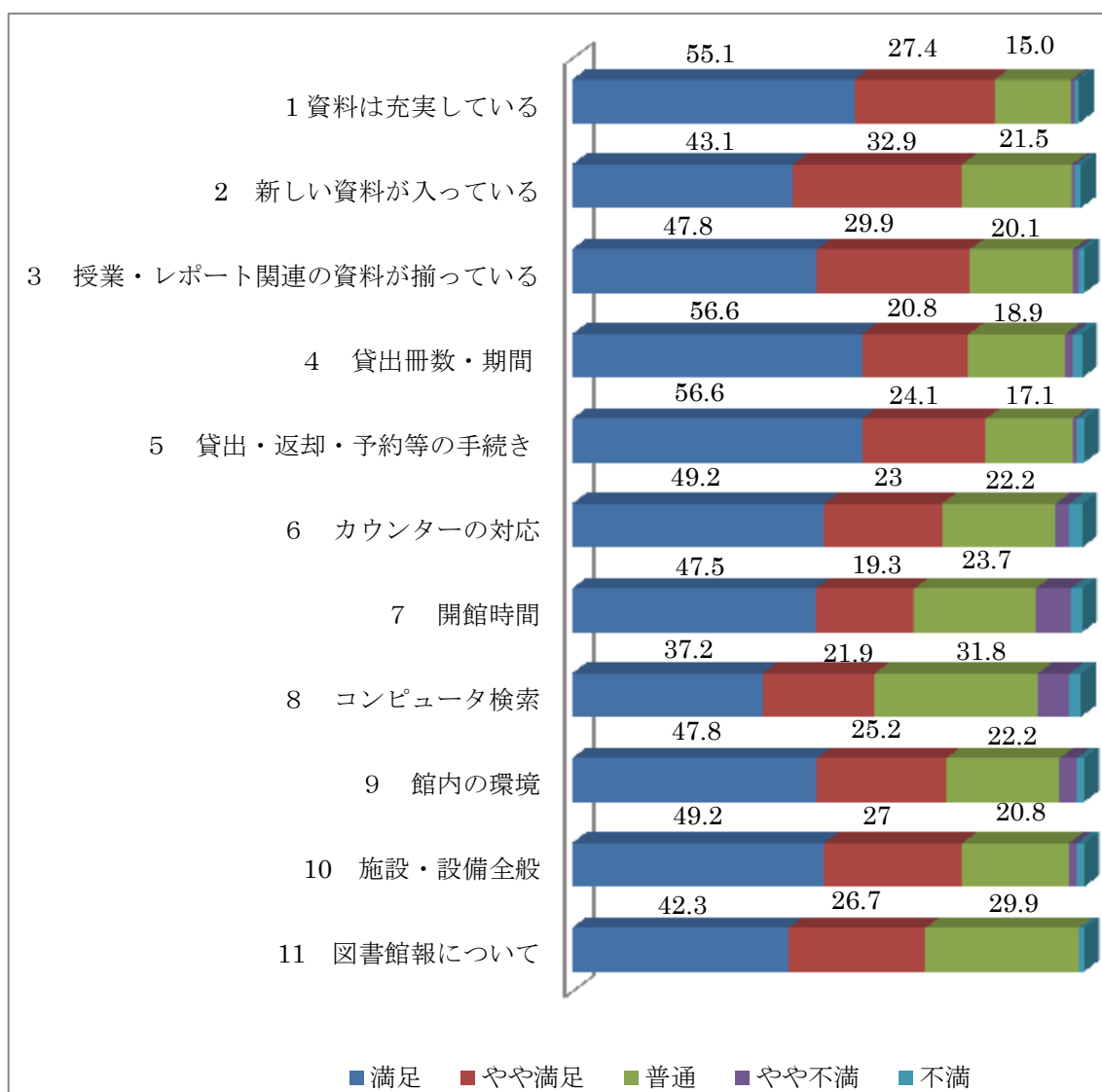
II 図書館利用者満足度調査分析

1 「図書館利用についてのアンケート」結果

2015年12月2日、2016年2月9日に、例年どおり「図書館利用についてのアンケート」を実施した。1学年171名、2学年103名、合計274名から回答を得た。設問は、図書館のサービスについて11項目、「満足」「やや満足」「普通」「やや不満」「不満」の5段階評価。「意見」は、自由に記入できるようにした。なお、アンケート実施当日、2年生の欠席が多かったが、例年どおり集計した。

図書館利用全般について

2015年度は、前年度に比べ全般的に「満足」が減少した。全ての項目について2学年に比べて1学年の評価が高い。

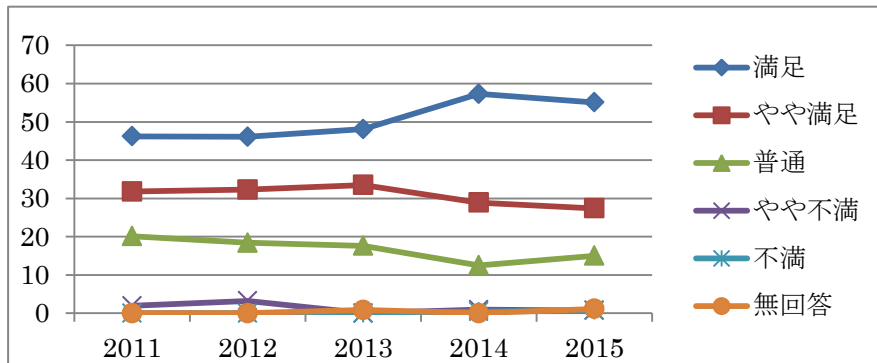


各項目について

各項目について集計し、2011年度から2015年度までの過去5年分を比較し、満足度の変化をあらわした（数値は%）。以下の、☆は2015年度、★は項目の特徴。

資料について

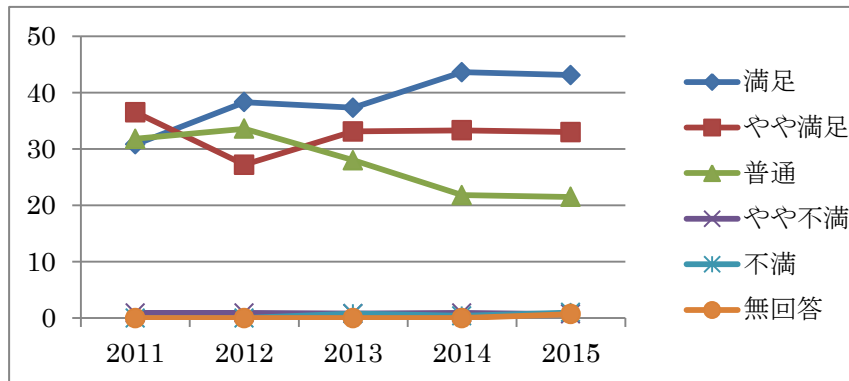
1 資料は充実している



☆2015 - 「満足」「やや満足」の合計の数値が 82.5 ポイントで、項目中最も高かった。1、2 学年ともに、資料の充実度を実感していると考えてよい。学年別に見ると「満足」は 1 学年の方が 2 学年より 10.6 ポイント高かった。

★この項目は、「資料」についての項目で、Q2、Q3 と相関性が高い。いずれも満足度が高いが、Q1 は全般的な設問である。毎年「満足」「やや満足」が「普通」よりも上位で安定している。1 学年の方が資料の充実度を実感している。

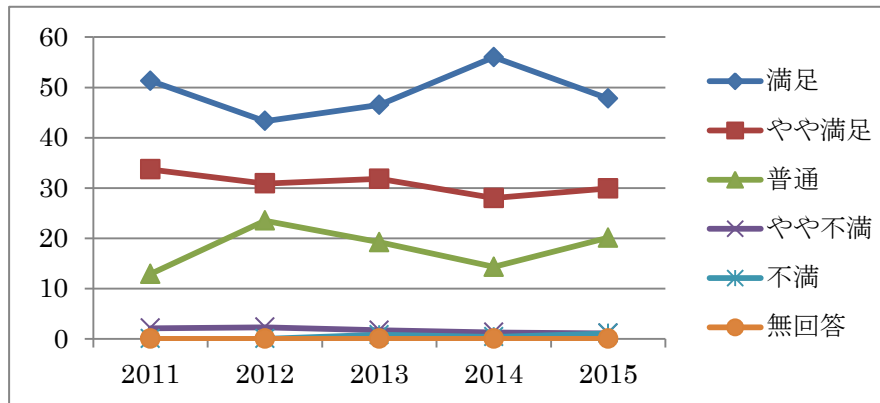
2 新しい資料が入っている



☆2015 - 「満足」「やや満足」を合わせると 76.0 ポイント。1 学年と 2 学年の「満足」の開きは少なく 2.2 ポイントであった。★資料についての項目で Q1、Q3 と相関性が高い。2013 以降「満足」「やや満足」

をあわせた数字が 2013 年度以降 70 ポイント台を保っている。資料の新鮮度について満足が伺える。引き続き学生向けの新刊図書を中心に選書をしていきたい。

3 授業・レポート関連の資料が揃っている

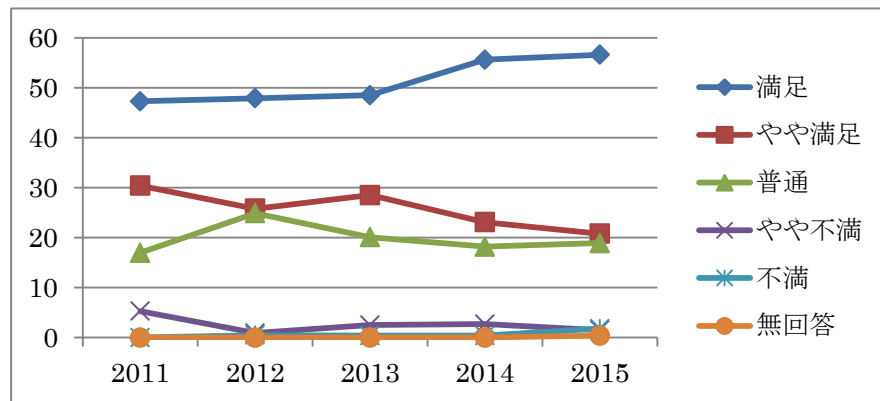


☆2015-「満足」「やや満足」の合計は 77.7 ポイントで、2014 より 6.3 ポイント減少した。Q1、2、3 の資料について、1 学年の方が満足度が高い。2 学年になると課題、実習などで資料を使いこなしている分、評価が厳しい。引き続き、教員からレポート課題について連絡があ

れば速やかに準備をして対応したい。★資料についての項目で、Q1、Q2 と相関性が高い。この設問が Q1、Q2 と違うのは、設問が具体的で身近な問題であるということ。上記 2 設問よりも「やや不満」の数値が毎年高いのが特徴。

サービスについて

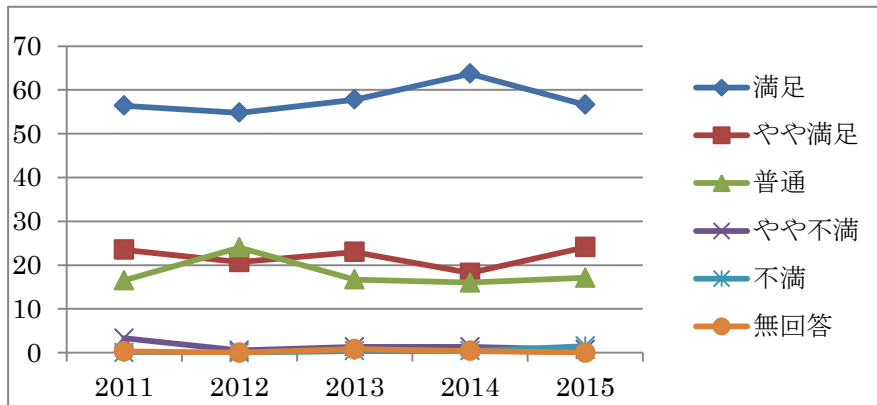
4 貸出冊数・期間



☆2015-「満足」「やや満足」の合計は 2014-78.7、2015-77.4 と大差なかった。学年別では 1 学年の「満足」が項目中最も高く 60.8 ポイントであった。2 学年は 49.5 ポイントで、11.3 ポイントと大きな差が出た。★貸出についての項目で、Q5 との相関性が高く、評価も同様

の傾向を示している。「満足」と「やや満足」をあわせた数値が、毎年 77 ポイントあたりを推移している。実習期間の長期貸出時に制限冊数を変更したり、複本の整備などを行っているため満足が得られていると考える。

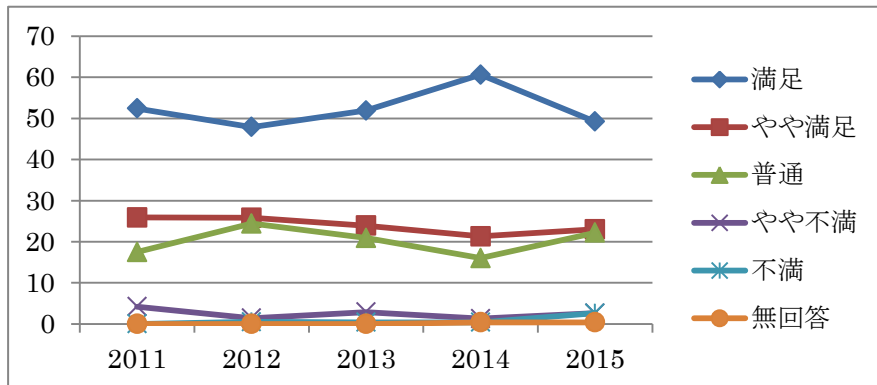
5 貸出・返却・予約等の手続き



☆2015-「満足」「やや満足」をあわせた数値が 80.7 ポイントあり、Q1 とともに満足度が高い項目。学年別に見ても 1 学年の「満足」は 59.6 ポイント、2 学年は 51.5 ポイント。★貸出の手続きに

ついでの項目で、Q4 との相関性が高い。「満足」「やや満足」をあわせた数値が 2013 以降平均 80 ポイント台を推移し評価が高い。

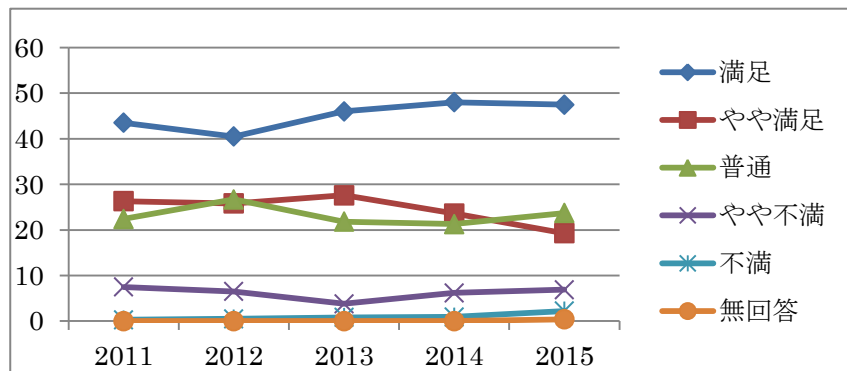
6 カウンターの対応



☆2015-「満足」の平均が 2014 より 9.7 ポイント減少し 72.2 ポイントであった。学年別に見ると 1 学年は 51.5 ポイント、2 学年は 45.7 ポイントと、それぞ

れ 14.7 ポイント、5.6 ポイント減少した。★いずれの設問とも直接的に相関性は低い。「満足」「やや満足」をあわせた数値が 70 ポイント台を推移している。

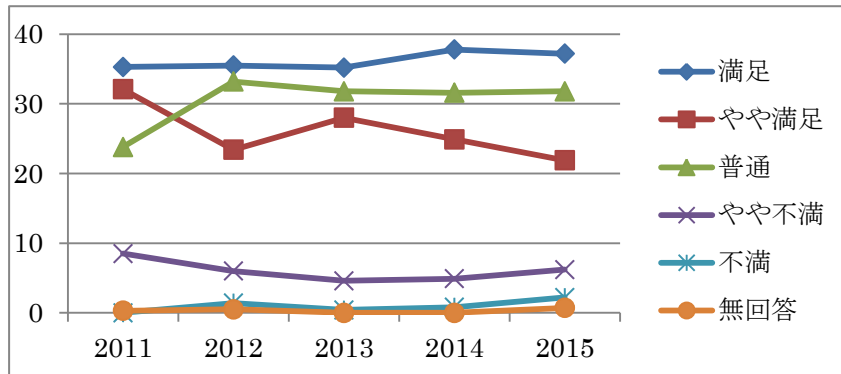
7 開館時間



☆2015-1・2 学年の「満足」の差が2014 以降大きい。2014 は 13.1 ポイント 2015 も 10.7 ポイントと開きがみられた。1 学年の評価が高く 51.5 ポイントであった。「満足」と「やや満足」をあわせた

数値が、2013・2014 は 70 ポイント台だったが 2015 は 66.8 ポイントに減少した。★朝も利用があれば 9 時前から、また授業がある土曜、オープンキャンパスなどには開館し対応している。

8 コンピュータ検索

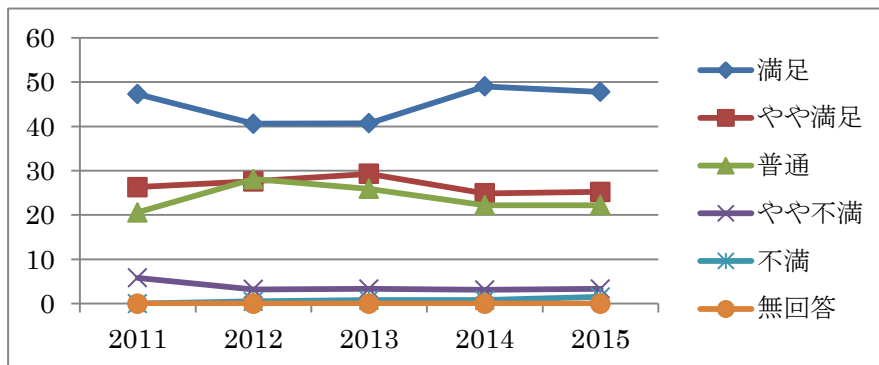


☆2015-1、2 学年ともに満足度が最も低い項目で、それぞれ 38 ポイント、35.9 ポイントであった。「満足」と「やや満足」の合計も 2014 より 3.6 ポイント減少し、59.1 ポイントと最も低い。「普通」の平均は 30 ポイント台を推移し、他の項目より高い数値。★満足度が低い

原因は、資料検索はできて資料そのものを探せないことを表している。2012 より館内 OPAC 上に配架図を表示以降、本を探しやすくなったと思われるが、依然として満足度は低い。毎年 4 月にガイダンスを実施しているが参加者はいない。カウンターでその都度対応している。

施設・設備

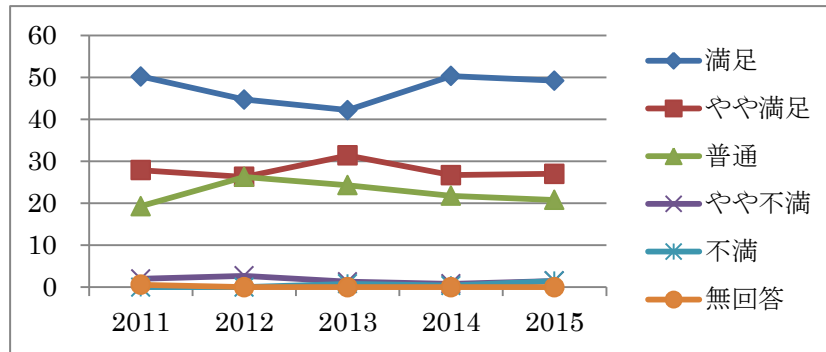
9 館内の環境



☆2015-「満足」と「やや満足」をあわせた数値は、2014 より 0.9 ポイント減少し 73 ポイントであった。★「満足」、

「やや満足」の合計が毎年 70 ポイントを推移し安定している。

10 施設・設備全般

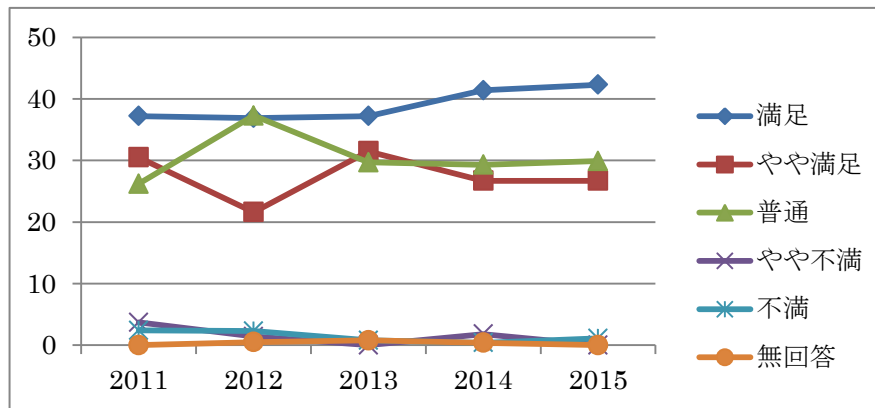


☆2015－2014 は 1・2 年の学年別で「満足」「やや満足」が、それぞれ 10.9、11.2 ポイントと大きな差がみられたが、2015 は 7.4、1.9 ポイントと開きが減少し

た。「満足」と「やや満足」の合計は毎年 70 ポイント台を推移している。★充実した、施設・設備が理由と考えられる。絵本コーナーの配置換え以降好評である。

広報

11 図書館報について



☆2015－「満足」と「やや満足」をあわせた数値は 69 ポイントで 2014 と大差なかった。過去 5 年間、68～69 ポイント第を推移している（2012 は 58.5 ポイント）。★この設問に対する回答の傾向は、満足度はそれほど高くないが、不満も高くない

点である。学生によって、図書館利用に大きな開きがあるため、関心度にも差が生じているようだ。近年は、実習のための図書館利用をインタビューしたり、カラー版を発行するなど工夫をしている。

2016 年 8 月 1 日発行
横浜女子短期大学図書館
〒234-0054 横浜市港南区港南台 4-4-5
TEL 045-835-8115 FAX 045-835-8118

